

「田之浦山宮神社神楽舞・ダゴ花の伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立田之浦小学校

2 学年・人数

小学1年生から5年生（計5名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時（場所）：

小学校体育館・田之浦ふるさと交流館舞台

（6月末から7月末、10月中旬から11月末、1月から2月）

※その他，イベント等に出演依頼があった時（平成25年度は2回）

(2) 発表の日時（場所）：

田之浦山宮神社夏祭り（8月）・校区文化祭（11月）、夜神楽（2年に1度、11月最終土曜日）、ダゴ祭り（2月最初の日曜日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称：田之浦山宮神社神楽舞

(2) 由来

神舞は，ダゴの奉納とともに古くから行われてきた春祭の行事で，昭和17年の奉納を最後に長い間途絶えていた。昭和57年に神楽保存会が組織され，翌58年2月の春祭に神舞が復活し，12段が奉納された。宮地集落の精米所で焚き火をしながら先輩方の指導により夜遅くまで練習を重ねた。宮崎県の高千穂神楽等の研修も行い復活した。校区の方々へ披露するために集落持ち回りの夜神楽を行っていたが，平成10年から，現在25段を2年に1度の夜神楽で奉納している。ダゴ祭りの時には，5段の舞を山宮神社特設ステージで奉納し，その後，ダゴ花取りが行われる。

(3) 構成等

現在，継承されている25段の舞は一つ一つの舞が異なり，舞人も小学1年生から60歳代までと幅も広く，舞によっては1人の舞，2人か4人での舞，最大12人の舞まであり，持つ道具や装束もそれぞれ違っている。舞人・楽部令人を合わせれば60人程になる。また，ダゴ祭りの際の「だご花」は，集落単位で作成され，祭り当日の朝，神社に奉納する。学校でも1本作成している。

5 保存会や地域との連携の具体

神舞は構成等が多種多様で，現在は保存会を中心とした取組になっている。児童生徒、保護者を含め学校や地域の協力のもと，地域ぐるみで実施されている。保存会も2年に1度は外部研修で他の神楽舞の視察を計画的に行っている。田之浦小学校在籍であれば舞えるということで，保護者や祖父母も経験者として，子や孫たちに励ましの言葉をかけている。また，夕方や土曜日の練習となるが，保護者も喜んで協力し，衣装の着付け等も保存会の方々と共に行っている。2年に1度の夜神楽は午後3時から10時ぐらいになるため，夜食の準備等は地域ぐるみで行っている。

ダゴ花は，ダゴ祭り数日前に，高齢者の方々の指導を受けて，保護者も一緒になって，ヒラヒラ作りとダゴ作りを行い，ダゴ花を作成している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学生は「子ども神楽」を舞うことができることを、児童本人だけでなく保護者や祖父母，地域の方々も楽しみにしている。また，幼少期に神舞に参加したという体験をもつ成人が協力体制を作り，練習や奉納等がスムーズにできている状況である。また，地域の高齢者の方々の指導を受けてのひらひら作りとダゴ花作りもスムーズに行っている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



子ども神楽練習風景



学習発表会・校区文化祭での子ども神楽披露



ひらひら（竹串）作り



ダゴ花作り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

参加児童： 初めて子ども神楽に参加しました。うまくできると思っていたのですが，一生懸命練習して上手になってきました。学習発表会ではたくさんの人に拍手をもらうことができ，大変うれしかったです。また踊りたいと思います。

保護者： 普段の練習から，一生懸命に取り組んでくれていてうれしい。本番では凛とした態度で臨むことができ，成長したなと感じた。田之浦でなくては経験できない行事に参加でき，とても有り難いと思う。

保存会： 子ども達は難しい箇所も覚えるのも早く，感心する。地域の伝統芸能の継承に一役かっているが，年々児童数が減っていき，舞手確保も大きな課題である。

教員： 保存会の方々が子ども神楽を指導されている姿を見ると，伝承されるべくシステムがしっかりと作られていることを感じる。また，学校のダゴ花も神社の中で一番目立つところに飾って頂いており，有り難く思う。今後も学校と地域，家庭が一体となって子どもを育て，ふるさとを誇りにもてる子どもが育っていくよう努めていきたい。